

キャラクター名
 百木 優理(もものき ゆうり)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ウロボロス		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	16歳	性別	男性
覚醒	渴望	衝動	自傷	初期侵食率	34	%
出自	疎まれた子	経験	トラウマ	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	4	1	0			5	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	1	0	0			1	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	1		情報:UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 情報屋	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
賢者の石(レネゲイドクリスタル)	P	N		
あの人	P 執着	N 不安		
立科沙紀	P 尊敬	N 恐怖		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト(ウロボロス)	3	2	Xジャー	-		シ	-	
効果:	組み合わせた判定のクリティカル値-[SL] (下限値7)							
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	肉体を使用したエフェクトダイスを+(LV+2)個する。素手だけになる							
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	戦闘移動できる。							
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	素手のデータ変更							
原初の黒(時の棺)	1	10	オート	視界	単体	自動	100	
効果:	相手の判定を失敗にする。							
原初の赤(漆黒の拳)	1	3	Xジャー	武器	単体	白兵	-	
効果:	組み合わせた攻撃の攻撃力を+LV。装甲無視。							
原初の白(サポーターデバイス)	3	6	セットアップ	至近	自身	自動	80	
効果:	基本能力値を使う判定ダイスを+(LV×2)個する。1シナリオ3回まで。							
螺旋の悪魔	5	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果:	バッドステータス{暴走}付与。ウロボロス以外を組み合わせた攻撃の攻撃力を+(LV×3)する。							
イージーフェイカー	★	-	Xジャー	至近	単体	-	-	
効果:	栄養満点の水作れる。							
傍らの影法師	★	-	Xジャー	至近	自身	-	-	
効果:	影の従者を出す。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【性格】
 度を越えた優しさ困ってる人をほっとけない

【経歴】
 山の中にある小さな教会に拾われて育てられた。
 ある日、同じ孤児の子と喧嘩をしまして大怪我を負わせてしまう。
 子供には出せない大きな力を目の当たりにした教会の人間が気味悪がり悪魔の子として教会地下の牢に監禁することになった。
 悪魔の子として拷問を受け罵詈雑言を浴びせられ続けた肉体と精神には大きなダメージを負った。
 体力の限界が近づき意識が朦朧とした時、それは優理の前に現れた。
 それは布切れを体全体にまとわせた男とも女とも取れない容姿と声で話しかけてきた。
 「かわいそうな子。今にも壊れそうだ。そんな君に二つ選択肢をあげよう。」
 「生きたい?死にたい?」
 「生きたら辛く苦しい思いをするかもしれないし誰かに認められ幸せになれるかもしれない。」
 「死ねば辛く苦しい思いをしなくて済むけどそこからは何も無い。」
 「どちらを選ぶ?」
 優理は死にたいと言いたかったが言葉が出なかった。喉を潰されていたからだ。
 だが言いたかった言葉とは裏腹に心の奥底で優理は望んでいた。誰かに存在を認められ愛されたいと。
 それは喋れない優理の目を見て少し笑った気がした。
 「わかったよ。君の望み。」
 「君の望むままにしよう。」
 とそれは言う手と手を優理の頭の上に乗せて撫でた。
 「1つヒントをあげよう。優しくなりなさい。」